

大学院学生各位  
To All Graduate Students

令和4年度  
**基盤医学特論 開講通知**  
Information on Special Lecture Tokuron AY2022

**題目：正と負の情動価値の生成と変容を支える神経回路メカニズム  
とその可塑性**

**Title:** Neuronal circuits and plasticity underlying modulation of affective valence  
of sensory signals

**講師：渡部 文子先生**  
東京慈恵会医科大学・総合医科学研究センター・  
臨床医学研究所・教授

**Teaching Staff:** Dr. Ayako Watabe

Professor, The Jikei University School of Medicine, Institute of Clinical Medicine and Research

**日時：令和4年10月19日（水） 17:00-18:30**

**Time and Date:** 17:00 - 18:30, 19 October (Wed), 2022

**場所：Zoom 及び名古屋大学 環境医学研究所 南館大会議室（東山）**

（人数制限のため環境医学研究所所属者以外の方は Zoom での参加をお願い致します）

\* 関係講座部門等の連絡担当者：環境医学研究所・神経性調節学 小野 大輔（3864）

**Contact:** Daisuke Ono (3864)

**使用言語：** 日本語 Lecture in English.

**Registration:** Please register from the following URL or QR code by October 14. Zoom invitation will be sent by e-mail.

<https://forms.gle/NubPoQUsmK1HK9ps7>



**Abstract:**

苦味や痛みは警告信号として、甘味や優しい触感などは報酬信号として、正と負の情動に直結する。このような生得的情動は『毒や危険を避けて、安全な食物や巣を選ぶ』という生物学的意義があると想像される。これらの感覚情報は、古典的に知られる視床・皮質を介した間接経路とは独立に、橋にある腕傍核を介して扁桃体に直接入力する。我々はこれまで、直接経路が恐怖記憶の形成に必要かつ十分であること、忌避信号として機能し負情動の生成に関与することを報告してきた。さらに、直接経路は高い可塑性を示し、強い恐怖記憶形成後に顕著な不安様行動とシナプス増強を示すことも見出している。しかしながら、直接経路の可塑性がどのような生理的意義を持つのかは未だ不明である。興味深いことに、直接経路の起始核である腕傍核は痛み以外にも温度、味覚、飢餓感、内臓感覚など、情動を伴う感覚情報の統合の座として機能する。

本日のセミナーでは、このような情動価値の形成と変容における神経回路について概説し、改めてシナプスレベルで分子機構解明に向けたアプローチを紹介したい。